

Library News



京教図書館 News

2008

5

私のすすめるこの1冊・・・二枝 美津子(英文学科 教授)

G・レイコフ M・ジョンソン 『レトリックと人生』

多くの本の中で「目から鱗!」と感じる本に出会えたときは、とてもうれしいものである。私の言語観を大きく変えてくれたのが、今回お薦めする本である。出版されたのは少し前なので、すでに読んでおられる方もいるかもしれない。この本は、『レトリックと人生』というもので、ジョージ・レイコフとマーク・ジョンソンによって書かれた *Metaphors We Live By* (1980) の訳書である。この本を選んだのは、この本が日常用いられる言葉と、その背後にある人間の思考や行動の構造を明らかにしており、その洞察力に感動し、まだ読んでおられない人は是非一度読んでみてほしいと思ったからである。

原著 *Metaphors We Live By* は、その後の言語学の世界に計り知れないほど大きな影響を及ぼした。この本が出版される前は、原著に用いられるメタファー (Metaphor) という語は修辞学 (レトリック) の一部としてみなされ、詩的空想力が生み出す言葉の綾のことであり、修辞学的な文飾の技巧のことであった。それに、メタファーというのは思考や行動の問題であるよりは言葉遣いの問題であると考えられていた。しかし、この本が出版されてから、メタファーは言語活動のみならず思考や行動にいたるまで、日常のあらゆるところに浸透していることが明らかになった。日常的に用いられる言葉に見られるメタファーに研究の中心が置かれるようになった。この本では、日常用いる言語表現をみると、私達が世の中をどのように捉えているかが理解できると述べている。「時間を浪費する」「時間を節約する」「時間を無駄にする」等の日常語の中に、TIME IS MONEY というメタファーによって成り立っている概念が存在していること、また、「考えをうのみにする」「焼き直しの理論」「考えを消化する」などのメタファー表現の中に IDEAS ARE FOOD という概念が反映されていること等などが多くの例とともに示されている。また、メタファーは知らない世界を理解する上で強力な武器にもなる。私たちは未知の世界を把握するのに身近な世界を介して理解可能な領域に手繰りよせている。例えば、パソコン関係の用語には馴染みのある文法具や医療関係の用語が多く用いられている。

自分の日常用いる言葉に、生活の基盤となる概念や、文化を知る手がかりがある。それらを発見するのは楽しいことである。是非一度読んでみていただきたい。

『レトリックと人生』(1986) G・レイコフ M・ジョンソン著

渡部昇一 楠瀬淳三 下谷和幸訳 出版社:大修館書店 出版年:1986 定価 2,300 円

ISMN4-469-21125-7 開架図書館南館 2 F と書庫 4 F にあります。

■ 図書館からのニュース

1. 図書館ツアー 開催中

「図書館があるのは知っているけど、中はどうなってる?」「本はどうやってさがしたらいいの?」「コンピューターで検索したけど、よくわからない!!」そんなあなたのために、図書館ツアーを実施しています。

事前申込は不要です。特に、他大学から進学された方や現職教員の方は、図書館の利用について知る機会がありませんので、ぜひご参加下さい。

図書館ツアー

日時 5月1日(木) 10:30-10:55 館内案内
5月1日(木) 16:20-16:45 所蔵資料の探し方(OPAC 入門)
5月7日(水) 13:35-14:00 所蔵資料の探し方(OPAC 入門)

上記日程以外でも、ツアーを実施します。カウンターで予約してください。
(受付期間:5月16日まで)

2. 論文検索・収集法講座のご案内

雑誌論文の検索から入手方法までを、パソコンを用いてデータベース CiNii を中心に実習形式で説明します。5月の開催予定日時は下記の通りです。

下記の日時に図書館カウンター前にお越し下さい。予約は不要です。ご参加をお待ちしています。

日時 5月15日(木) 15:00-15:30 5月27日(火) 11:00-11:30
5月19日(月) 13:30-14:00 5月30日(金) 16:30-17:00
5月21日(水) 15:00-15:30

3. 「うた」と「おはなし」の会について

当館と幼児教育科平井研究室共催の「うた」と「おはなし」の会を下記の日程で開催します。詳細は当館HPでお知らせいたしますので、お誘い合わせの上越しください。

なお、5月9日(金)午後より、10日(土)全日は準備等のため視聴覚室が使用できませんのでご了承ください。

日時： 平成20年5月11日(日) 11:00~12:00
場所： 京都教育大学附属図書館2階 視聴覚室
対象： 幼児と保護者(0~2歳児さんも大歓迎!)



4. 企画展とふれあい伏見フェスタについて

4月5日（土）開催の「ふれあい伏見フェスタ」に図書館企画として「アナログ時代へタイムスリップ ―昭和初期からの実験器具など―」と題し、実験器具の展示、京都府女子師範学校時代の映像の上映、除却図書の無償譲渡などを行いました。当日は天気も良く、大勢の方が「ふれあい伏見フェスタ」に来て頂き、特にご年配の方々が、実験道具に興味を持って見に来られました。



【実験器具の展示会場】



【京都府女子師範学校時代の映像上映会場】

■ 論のくちび理のむすび・・・湯川 夏子(家政科 准教授)

「高齢者施設における「料理療法」の試み」

―片麻痺認知症高齢者を対象とした事例報告―

湯川夏子 ほか：京都教育大学紀要 No.112：pp.99-109

みなさん、料理を作ることが好きですか？料理を作ること自体、楽しい作業ですが、人と一緒に料理を作り、食べる、ということもまた大きな喜びです。人に喜んでもらえる、人にほめてもらう、役にたつ。料理作りは生活の張り合いにもつながります。

特に、これまで長年、家族のために料理作りを担当してきた高齢者にとって、料理活動は、その人を生き生きさせる活動になります。そこで、最近、グループホームをはじめとした高齢者施設において、高齢者自身が料理をおこなう活動が定着しています。学生の皆さんの中には、ボランティアや介護等体験で高齢者施設に行き、高齢者と一緒に料理やお菓子を作った経験を持つ人もいないでしょうか。これまでは、高齢者が認知症になった場合や高齢者施設に入ると、高齢者が自分自身で料理をする機会はほとんど奪われていましたが、もっと料理活動を活発にしたいというのが、この研究のねらいです。すなわち、どのような対象者に、どのような料理内容や方法で支援を行うと効果的か、という料理活動支援の方法論を「料理療法」として確立することを目的としています。

そこでこの論文では、介護老人保健施設において認知症高齢者の料理活動グループと一緒に参加し、その中のある片麻痺の男性が料理活動に参加する様子の観察調査を行った事例報告です。その結果、片手しか動かない人でも、支援者の助けがあれば、混ぜる、丸める、味付けなどの様々な調理操作が可能でした。包丁のかわりにはさみを使用したり、やわらかい野菜を準備するなどの工夫次第で切る調理の範囲も広がりました。料理活動に参加することで、コミュニケーションの増加や自信回復の機会となり、また、認知症の改善傾向も見られています。

認知症高齢者で片麻痺の人であっても、支援者の工夫次第で料理活動が可能であり、生き生きと料理を楽しむことができるのです。どうぞ皆さんも、高齢者と一緒に料理を楽しむ機会を持ってみてください。

全文は近日図書館HP「京都教育大学紀要」で、ご覧いただけます。

■ 図書館開館スケジュール



(通 常)
 開館時間 : 9:00
 閉館時間 : 21:00
 一部期間は 17:00 に閉館します
 下記カレンダー「~17:00」と記載

5

日	SUN	月	MON	火	TUE	水	WED	木	THU	金	FRI	土	SAT
								1		2		3	祝
													休館
4	5	祝	6	休	7	8	9	10					
休館	休館	休館											~17:00
11	12	13	14	整	15	16	17						
休館			休館										~17:00
18	19	20	21	22	23	24							
休館													~17:00
25	26	27	28	29	30	31							
休館													~17:00

6

日	SUN	月	MON	火	TUE	水	WED	木	THU	金	FRI	土	SAT
1	2	3	4	整	5	6	7						
休館			休館										~17:00
8	9	10	11	12	13	14							
休館													~17:00
15	16	17	18	19	20	21							
休館													~17:00
22	23	24	25	26	27	28							
休館													~17:00
29	30												
休館													

5月3日(土)・5日(月)は祝日のため
 休館します。
 5月6日(火)は休日のため休館します。
 5月14日(水)は館内整理のため休館します。

6月4日(水)は館内整理のため休館します。

LIBRARY

京教図書館 News No. 92 2008年5月号
 編集発行：京都教育大学附属図書館
 発行日：平成20年5月1日
 内容に関するお問い合わせ先：
 附属図書館(内線8176)



京都教育大学